

1:9 シロでの飲食が終わった後、ハンナは立ち上がった。ちょうどそのとき、祭司エリは【主】の神殿の門柱のそばで、椅子に座っていた。

1:10 ハンナの心は痛んでいた。彼女は激しく泣いて、【主】に祈った。

1:11 そして誓願を立てて言った。「万軍の【主】よ。もし、あなたがはしための苦しみをご覧になり、私を心に留め、このはしめを忘れず、男の子を下さるなら、私はその子を一生の間、【主】にお渡しします。そしてその子の頭にかみそりを当てません。」

1:12 ハンナが【主】の前で長く祈っている間、エリは彼女の口もとをじっと見ていた。

1:13 ハンナは心で祈っていたので、唇だけが動いて、声は聞こえなかった。それでエリは彼女が酔っているのだと思った。

1:14 エリは彼女に言った。「いつまで酔っているのか。酔いをさましなさい。」

1:15 ハンナは答えた。「いいえ、祭司様。私は心に悩みのある女です。ぶどう酒も、お酒も飲んでおりません。私は【主】の前に心を注ぎ出していたのです。」

1:16 このはしめを、よこしまな女と思わないでください。私は募る憂いと苛立ちのために、今まで祈っていたのです。」

1:17 エリは答えた。「安心して行きなさい。イスラエルの神が、あなたの願ったその願いをかなえてくださるように。」

1:18 彼女は、「はしめが、あなたのご好意を受けられますように」と言った。それから彼女は帰って食事をした。その顔は、もはや以前ようではなかった。

ハンナは悩んでいましたが、祭司は霊的な洞察力に乏しく、「酔っている」などと言っていました。それでもハンナは祭司を、その働きゆえに尊重し、祈りました。そしてそれゆえに「以前のようにではなかった。」という信仰が与えられ、解決したのです。

私たちも悩みがありますが、その苦悩さえも主への信頼によって、意義あるものとしていただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

